

秘

2098

海軍公報

第四八〇四號

昭和十九年九月十九日(火)
海軍大臣官房

〇令 達

達第三一三號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

機關長主管

區別	類別	番號	供給區分	品名	數稱	摘記	要事
改正備品	一七二	陸	消毒器	甲	個	附屬品共(消毒籠及同類ヲ除ク)蒸氣ニ依リ直接消毒スルモノ	摘要改正
同	同	陸	同	乙	個	眞空ヲ利用シ蒸氣又ハ火力ニ依リ水ヲ煮沸スルモノ	摘要改正
同	同	陸	同	丙	個	蒸氣又ハ火力ニ依リ水ヲ煮沸スルモノ	摘要改正
追加同	一四	陸	消毒器	甲及丙	個	消毒器甲及丙並ニ消毒器ヲ供給セザル部隊ニ於ケル食器消毒用	新規設定
同	同	陸	消毒器	甲及丙	個	消毒器甲及丙並ニ消毒器ヲ供給セザル部隊ニ於ケル食器消毒用	新規設定
同	同	陸	消毒器	甲及丙	個	消毒器甲及丙並ニ消毒器ヲ供給セザル部隊ニ於ケル食器消毒用	新規設定

内令第一〇七四號
大東亞戰爭中艦船部隊、航空機及海軍軍人軍屬被服起程俣ノ通改正ス

要登載

秘海軍公報 第四八〇四號 昭和十九年九月十九日

昭和十九年九月十五日

海軍大臣

第十條 表彰ヲ受ケタル艦船部隊又ハ航空機ハ別表ニ依リ標識ヲ附スルコトヲ得
(別表添)

(内令提要二、八六ノ八頁参照)

官房軍機密第一一九五號

海軍特攻部規程左ノ通定ム

昭和十九年九月十三日

海軍大臣

内令提
要登載

- 海軍特攻部規程
- 第一條 當分ノ間海軍省ニ海軍特攻部ヲ置ク
 - 第二條 海軍特攻部ハ特攻兵器(航空關係ヲ除ク以下同ジ)ニ關スル事項ノ連絡統合ニ任ジ且左ノ事項ノ研究、調査及企畫ヲ掌リ其ノ實行促進ニ當ル所トス
 - 一 特攻兵器ノ實驗、考案及之ヲ用法ニ關スル事項
 - 二 特攻兵器ノ量産及整備ニ關スル事項
 - 三 特攻兵器關係要員ニ關スル事項
 - 四 特攻兵器關係ノ教育訓練及基地ノ整備ニ關スル事項

五 特攻兵器關係ノ編成及進出準備等ニ關スル事項
 第三條 海軍特攻部ニ部長、部員及幹事ヲ置ク其ノ組織別表ノ如シ
 第四條 部長ハ部務ヲ總理ス
 第五條 部員及幹事ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス
 第六條 部長ハ研究、調査及企畫シタル事項ニシテ實施上各局部ノ所掌ニ屬スルモノハ案ヲ具シ之ヲ當該局部ニ移スト共ニ緊急戰備促進部ト密接ナル聯繫ヲ保持シ關係事務ノ促進ヲ圖ルベシ

(別表)

部長	部員
海軍省出仕	海軍省軍務局局長 三 海軍省兵備局局長 一 海軍省人事局局長 二 海軍省教育局第二課長 二 海軍省教育局局長 二 海軍潛水艦部部員 二 海軍艦政本部總務部第一課長 二 海軍艦政本部總務部第三課長 三 海軍艦政本部部員 三 海軍施設本部部員 二 軍令部戰力補給部總務班長 二 軍令部第三課長 二

備考	幹事	軍令部部員
本表ノ外必要ニ應ジ部員及幹事ヲ命ズルコトアルベシ	海軍省軍務局局長 海軍艦政本部部員 海軍潛水艦部部員 海軍省出仕	五

官房需機密第三四七號
 經營需品定額表中數量左ノ通定ム
 昭和十九年九月十八日
 機關長主管
 海軍大臣

隊名	品名		備品	記
	類別及番號	數量		
陸上部(團)隊 (消毒器甲、丙ヲ供給シアルモノ)	消毒器	一四ノ八イ	個	※
	消毒糊	一四ノ八ロ	個	※
	供給數基ハ概ネ一五人乃至二〇人ニ對シ一個ヲ標準トス			

官房需第二三四號
 當分ノ間艦船部隊、學校及病院勤務ノ下士官、兵及豫備員候補

者ニシテ主トシテ體育鍊成又ハ保健ノ爲休暇ヲ許可セラレ外出
スルモノニ對シ所轄長必要ト認メタルトキハ其ノ食數ニ應ジ一
食ニ付米一〇瓦、麥一〇〇瓦ヲ給與シ之ヲ携行セシムルコト
ヲ得
前項ノ規定ニ依リ米麥ヲ給與シタル者ニハ海軍軍需米ノ特別配
給措置ニ依ル取扱ヲ爲サズ

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

(參照) 海軍軍需米ノ特別配給措置(昭和一九、九、一九秘海軍公報)

○通牒

軍務一機密第八七〇號

昭和十九年九月十一日

海軍省軍需局長

各鎮守府 參謀長殿

參謀副長等ノ所掌ニ關スル件申進

今次鎮守府及警備府ノ機關長ヲ廢シ鎮守府ニハ新ニ參謀副長
ヲ、警備府ニハ附トシテ大中佐ヲ配セララルコトトナリタル處
當分ノ間右ニハ機關科將校出身者ヲ配セラルル豫定ニ付其ノ所
掌ハ主トシテ左記事項ニ關シ參謀長ヲ輔佐セシムル採取計相成
度

記

秘海軍公報 第四八〇四號 昭和十九年九月十九日

- 一 機關及工作ニ關スルコト
- 二 艦船、兵器及軍需品ノ整備ニ關スルコト
- 三 生産増強及關係施設ニ關スルコト
- 四 其ノ他特定事項ニ關スルコト

軍需機密第五六〇號

昭和十九年九月十八日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

航海長主管消耗品「ガーゼ」代用櫻「セーム」
革供給ニ關スル件通牒

首題物品ノ供給ニ關シテハ綿糸ノ入手困難ナル情勢ニ鑑ミ「ガ
ーゼ」在庫品ノ有無ニ不拘「ガーゼ」一個ニツキ本品ヲ大小適
宜三枚宛代用供給方取計相成度

軍需機密第五六一號

昭和十九年九月十八日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

機關長主管艦營需品消毒籠及同網ニ關スル件
通牒

建第三一三號ヲ以テ首題物品ヲ艦營需品ニ新規設定相成官房需
機密第三四七號ヲ以テ其ノ數量ヲ定メラレ候處本品ハ現供用消
毒器甲丙ノ附屬品タリシ食器内籠及同網ヲ分離シ以テ別個ニ其
ノ供給補充ヲ容易ナラシメ且消毒器ヲ供給セラレザル特設部隊

二二六三

等ト雖モ適當ナル現有設備ヲ利用スルコトニ依リ消毒網ヲ必要トスル場合ハ之ヲ供給、貸與セシメザルル主旨ニ有之候條該當部隊ハ利用設備ニ應シ之ヲ請求シ軍需部ハ必要最少限度ノ數量ヲ檢討ノ上備品貸與ノコトニ取計相成度

追テ消毒器附屬品トシテ現供用中ノモノハ當該部隊ヨリ其ノ數量ヲ所管軍需部ニ通報シ軍需部ハ本通報ニ依リ元受整理スルモノト了知相成度

軍需糧第一四五號
昭和十九年九月十八日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

體育鍊成又ハ保健ノ爲休暇ヲ許可セラレ外出スル下士官、兵及豫備員候補者糧食給與携行ニ關スル件通牒

今般官房需第二三四號ヲ以テ首題ノ件令達セラレ候處右ハ國內食糧需給現狀ニ鑑ミ軍人ハ專ラ軍需米ニ依存セシメ家庭其ノ他一般民需ヲ壓迫センメザルコトヲ且且休暇及上陸外出中ニ於ケル食事ノ確保ヲ圖ル目的ヲ以テ當分ノ間其ノ休暇外出ヲ主トシテ體育鍊成又ハ保健ノ爲ト看做シ之ヲ適用セラルル趣旨ニ有之現下國內食糧事情ノ逼迫ニ伴ヒ國民一般ノ食糧ニ對スル關心特ニ深キモノアリ此ノ種措置方却テ國民ノ誤解指彈ノ對象トナルガ如キコト無キヲ保シ難シト認メラレ候條其ノ運用並ニ受給者ノ消費等ニ關シテハ萬遺憾ナキ様可然指導相成度

軍需糧第一四六號

昭和十九年九月十八日

海軍省軍需局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長 殿

海軍軍需米ノ特別配給措置ニ關スル件申進

海軍軍人軍屬中左記該當ノ者食事ニ要スル糧食品ヲ供業者ヨリ調辨ヲ要スルトキノ取扱ハ別紙様式ニ依ル軍需消費證明書ヲ供業者ニ發給ノ上處辨スルコトニ定メラレタルニ付了知相成度

追テ

- 一 分遣隊、派遣隊、病院（附屬）等常駐又ハ常勤者（入院者ヲ含ム）ニ對シテハ可及的各所轄ニ於テ糧食品支給方取計ハレ度
- 二 軍需消費證明書取扱要領別紙第一ノ通
- 三 軍需消費證明書ニ依ル米穀受給量額別紙第二ノ通
- 四 昭和十八年軍需糧第二二〇號ハ之ヲ廢止ス

記

- 一 演習又ハ行軍參加者
 - 二 派遣隊、分遣隊、監視所、防備衛所勤務者
 - 三 海軍病院附屬療養所勤務者及入院者
 - 四 公務旅行ヲ命ゼラレタル者
- 以上海軍給與令其ノ他ノ規定ニ依リ糧食（食料）支給ニ代ヘ糧食ヲ給與スル者ヲ含ム）ノ給與ヲ受クル者ニシテ旅費又ハ

食料ヲ支給セラレタル場合

- 五 艦船部隊、學校及病院勤務ノ下士官、兵及豫備員候補者中
 - (イ) 上陸外出ヲ許可セラレタル者ニシテ昭和十九年官房需第
五號ノ規定ニ依ル糧食ノ給與ヲ受ケザルトキ
 - (ロ) 休暇ニ依リ外出ノ者ニシテ昭和十九年官房需第二三四號
ノ規定ニ依ル米麥ノ給與ヲ受ケザルトキ

(別紙添)

(參考) 昭和十八年軍需糧第二二〇號

(昭和一八、一〇、一五 海軍公報(部内限))

昭和十九年官房需第五號

(昭和一九、一、一五 同)

昭和十九年官房需第二三四號

(昭和一九、九、一九 秘海軍公報)

○ 雜 款

○司令潜水艦變更

第三十三潜水隊司令ハ九月十三日司令潜水艦ヲ昌號第六十三潜水艦ニ變更セリ

○事務開始

第三百三十防空隊ハ九月一日第二高雄海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

海防艦屋久嶺裝員事務所ヲ九月十三日横須賀市谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

秘海軍公報 第四八〇四號 昭和十九年九月十九日

一二六五

		品目								所轄長印	
		(疋又ハ石) 數量								主計長印	
		供食數								昭和 年 月 日	
		氏名		供食者住所及名						軍需消費證明書	
自昭和 年 月 日 朝食		至同 年 月 日 晝食		期		間				所轄名	
計		其ノ他		下士官兵		准士官以上		區分		人員内譯	
名		名		名		名		數		名	
										責任者 官職氏名	
										名	
										月 日 送付	
										旅宿 行營 目的	

(軍需糧第一四六號別紙様式)(美濃又ハ模造半葉)

(昭和十九年九月十九日秘海軍公報)

(軍需糧第一四六號別紙第一)

(昭和十九年九月十九日祕海軍公報)













軍需消費證明書取扱要領

- 一 軍需消費證明書發給責任者ハ供食ヲ受ケタル者ノ内先任者又ハ主計科准士官以上トス
- 二 軍需消費證明書發給責任者ハ所要事項記註ノ上一通ヲ供食業者ニ交付シ一通ヲ所轄長ニ提出スルモノトス所轄長ハ捺印ノ上之ヲ海軍省軍需局ニ送付スルモノトス
- 三 軍需消費證明書ハ供食業者毎ニ別紙トシ其ノ都度又ハ一月毎ニ調製スルモノトス
- 四 品目ハ主食物トシテ供セラレタル米、麥、生パン、乾パン、麵類、餅、甘藷、馬鈴薯等ニ付記載スルモノトス但シ鐵道驛辨當ヲ購入シタル場合ハ驛辨當何個ト記載スルモノトス
- 五 受給者多人數ナルトキハ宿營地又ハ鐵道驛ニ對シ各所轄ヨリ豫メ連絡ヲ爲シ置クモノトス

(軍需糧第一四六號別紙第二)

(昭和十九年九月十九日秘海軍公報)

軍需消費證明書ニ依ル米穀受給量額			
受給者区分	品種	一食ニ對スル量額	記 事
一 演習又ハ行軍參加者	(米)	(一一〇〇瓦(約〇・八合)) (一〇〇〇瓦(約一・一合)) 以內	一 米食ノ場合ハ 米二一〇瓦(約一・五合)以內トスル コト
二 派遣隊、分遣隊、監視所、防備衛所勤務者	生パン	一八〇瓦以內	二 米、生パン、乾パン以外ノ品種ノ 量額ハ隨意トス
三 海軍病院附屬療養所勤務者及入院者	乾パン	一六〇瓦以內	三 驛賣辨當ノ量額ニ關シテハ農商省 ノ定ムル所ニ依ル
四 公務旅行ヲ命ゼラレタル者	米、其ノ他	都道府縣ノ定ムル所ニ依ル	
五 上陸外出ヲ許可セラレタル者 休暇ニ依リ外出シタル者			

備 考	機 關 電 機	通 信	航 海	砲 術	對 潛	航 空	標 識 授 與 年 月 日	航 空 機	部 隊	艦 船	區 分
								胴 體	適 宜	艦 橋	場 所
授 與 年 月 日 ハ 19.10.1 ノ 如 ク 記 ス ル モ ノ ト ス							標 識 授 與 年 月 日	兩 側	同 右	幅 五 十 纏	寸
	工 作	防 備	運 用 應 急	水 雷	護 衛	對 空		適 宜	高 サ 三 十 纏		
							標 識 授 與 年 月 日				法

(内令第一〇七四號別表)

(昭和十九年九月十九日祕海軍公報)

秘

2107

海軍公報

第四八〇五號

海軍大臣官房

昭和十九年九月二十日(水)

○通牒

官房備機密第三二八號ノ一〇

昭和十九年九月二十日

海軍省

内令提
票請登載

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三二八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メヲレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ二)中ニ

ブ	ラ	ン	テ	貳	四
ザ	ン	ボ	ア	ン	ガ
				テ	四
				テ	四

附録部隊區別符表(其ノ一)中ニ

第 三 百 十 七 設 營 隊	ウ	四	六	七
第 八 刑 務 所	ウ	四	六	八
第 九 三 三 航 空 隊	ウ	四	六	九

秘海軍公報 第四八〇五號 昭和十九年九月二十日

第 三 千 十 設 營 隊	ウ	四	七	〇
第 一 三 八 防 空 隊	ウ	四	七	壹

同ヲ (其ノ二)中ニ

第 三 百 十 八 設 營 隊	テ	七	壹
第 一 三 六 防 空 隊	テ	七	貳
第 一 三 五 防 空 隊	テ	七	參

同ヲ (其ノ三)中ニ

第 一 三 四 防 空 隊	イ	壹	四	參
第 一 三 七 防 空 隊	イ	壹	四	四
第 一 四 九 防 空 隊	イ	壹	四	五

同ヲ (其ノ四)中ニ

第 百 四 刑 務 所	セ	壹	七	七
第 百 二 軍 需 部 第 二 十 一 糧 食 生 産 隊	セ	壹	七	八

二二六七

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中
 第二十一海軍軍用郵便所ノ項所員ノ欄ヲ
 「專任 十二人 判任 三人 改ム」
 第二十六海軍軍用郵便所ノ項派出所ノ欄ヲ
 「專務 四人 雇員」ニ改ム

第一派出所	ジャカルタ
第二派出所	バリ島
第三派出所	ガワツ・ブ
第四派出所	エンデ
第五派出所	クローパン

第二十八海軍軍用郵便所ノ項中「第一派出所 クローパン」第二
 派出所 エンデ」第三派出所 ワインガツブ」ヲ削リ
 第三十八海軍軍用郵便所ノ項派出所ノ欄ニ
 「第二派出所 メルギ」ヲ
 第四十一海軍軍用郵便所ノ項派出所ノ欄ニ
 「第一派出所 昭南特別市」ヲ加フ
 「第三派出所 第十二航空隊」ヲ加フ

教育機密第三二六號 昭和十九年九月十三日 海軍省教育局長

各鎮守府、各警備府、各艦隊 參謀長殿
 臨時砲術講習(對空)等ノ件照會 要登載

新艦裝ノ艦艇及新編制ノ陸上部隊ニ對スル首題ノ件ハ從來各所轄ノ要望ニ應ジ之ヲ實行シツツアリタル所近時益少員數ノ講習回數激增シ教育ノ徹底ヲ缺ク惧大ナルヲ以テ自今左記ニ依リ之ヲ實施スルコトト致度ニ付講習希望ノ向ハ豫メ期日(同次)、講習項目及受講者ヲ學校宛直接通知スル如ク指導相成度又對空以外ノ砲術講習ニ關シテモ右ニ準ズル如ク處理セシメラレ度尤モ作戰其ノ他緊急已ムヲ得ザル場合ニ限り右期日以外ニ講習ヲ要スル場合ハ直接學校ト協議ノ上實施ノコトニ取計相成度

毎月期日	回次別	記 事
一日―三日	第一回講習	一 講習項目 對空射擊指揮法 高角砲構造動作取扱法 (ハ)×(イ) 機銃構造動作取扱法 二 受講者 准士官以上下士官兵適宜
十一日―十三日	第二回講習	三 講習場所 横須賀海軍砲術學校
二十一日―二十三日	第三回講習	

關係各廳長殿

自動車再生處理ニ關スル件照會

首題ノ件別紙要領ニ依リ處理相成度

(別紙)

自動車再生事業處理要領

一 目的

海軍保有ノ遊休車ニシテ大修理ニ依リテ再生可能ナリト認めラルモノヲ極力修理シ新車ノ需給緩和ニ資シ併セテ再生不能車ノ有効部品ヲ回收利用スルモノトス

二 要領

(イ) 擔當部局

(一) 航空本部

海軍自動車綜合修理工場ニテ實施スル場合

(二) 經理局

ニツサン工場ヲ利用スル場合

(三) 關係各部局

前號以外ノ民間工場ヲ利用スル場合

(ロ) 修理工場

要修理車ハ海軍自動車綜合修理工場ニ於テ再生スルモノトシ要スレバ民間工場ニ於テ再生スルコトヲ得ルモノトス

(ハ) 修理手續

(一) 海軍自動車綜合修理工場ニ於テ施行ノ場合ハ海軍航空

本部長ノ定ムル所ニ依ル

(二) ニツサンノ標準貨物自動車ヲ同社工場ニ於テ再生セシメントスルトキハ左記ニ依リ處理スルモノトス

(1) 修理要求

(a) 修理要求

自動車保有各廳ハ要修理車ノ搬入時期ヲ會社ニ照會ノ上直接之ヲニツサン工場ニ送付シ別途協定ニ依リ通知書三通ヲ作成シテ一通ヲ關係工場ヘ他ノ二通ヲ經理局及關係部局ニ通知ス

(b) 關係工場ハ要修理車ノ搬入アリタルトキハ速ニ海軍側立會ノ上該車ノ状態ヲ檢査シ檢査ノ結果ヲ目錄トシテ要求廳ヘ送付ス

(2) 修理ノ實施

(a) 修理ノ實施

關係工場ハ修理工事費調書ヲ調製シ之ヲ要求廳及經理局ヘ送付ス

(b) 關係工場ハ修理着工ノ指示ヲ受ケタルトキハ別途協定ノ要領ニ依リ修理ヲ實施スルモノトス

(c) 修理實施ノ過程ニ於テ再生不能ナルコト明トナリタルトキハ關係工場ハ要求廳ト交渉ノ上同一要求廳ニ屬スル二車以上ヲ一車ノ再生ニ集約スルト共ニ廢車ノ有効部品ハ之ヲ回收シテ要求廳ニ返却シ又ハ他車ノ用途ニ充ツルコトヲ得

(3) 修理完了

(a) 關係工場ハ修理完了セルトキハ其ノ旨要求廳ニ通

- (ニ) 知シ之ガ引取ヲ求ムルモノトス
 - (b) 受領検査ハ要求應ヨリノ出張員又ハ所在地監督官之ヲ行フモノトス
- (一) 再生不能ノタメ廢車ト決定セル殘骸ノ處置ニ關シテハ左記ニ據ル
 - (一) 海軍自動車綜合修理工場ニテ取扱ヘル分ハ修理用トシテ極力利用シ之方殘材ニ關シテハ車種ノ如何ヲ問ハズ其ノ提供部局、要求廳名等ヲ明ニシ新車製造用裏付資材ナルコトヲ明記シテニツサン共ノ他ノ關係工場ニ送り送付票三通ヲ作成ノ上一通ハ工場へ他ノ二通ハ關係部局及經理局へ通知スルモノトス
 - (二) ニツサン再生工場取扱ノ分ハ該車提供部局ノ新車製造用裏付資材トシテ處理スルモノトシ關係工場間ニテ受授ヲ明ニシ其ノ旨關係部局(航本ニアリテハ軍需省航空兵器總局資材課へ寫一部ヲ送附)要求廳及經理局へ通知スルモノトス
 - (ホ) ニツサン以外ノ民間工場ニ於ケル修理等ニ關シテハ前諸號ニ準ジ各廳ニ於テ處理スルモノトス
 - (ヘ) 修理ニ要スル資材ハ左記ニ據ルモノトス
 - (一) 海軍自動車綜合修理工場ニテ修理ノ場合ハ昭和十九年一月十三日航本機密第三五一號所定ノ通トス
 - (二) 右以外ノ場合ハ要求廳ノ負擔トス
 - (チ)(ト) 經費ハ要求廳ノ負擔トス
輸送ハ經統輸送ニ據ル

秘海軍公報 第四八〇六號 昭和十九年九月二十一日

自動車再生事業協定書

- 海軍省經理局長山本丑之助ハ自動車再生事業ニ關シ日産自動車株式會社取締役社長淺原源七ト協定スルコト左ノ如シ
- 第一條 本協定書ニ於テ再生事業トハ日産自動車株式會社製品タル要修理車ヲ再生工場ニテ修理再生スル場合ヲ指ス
 - 第二條 本再生事業ニ於テ再生以前ノ要修理ノ形狀ハ「一般概念上自動車トシテノ形狀機構ヲ有スルモ破損腐朽ノ爲ソノ機能ヲ發揮シ得ズ使用ニ耐エザルモノ」トス
 - 第三條 會社ハ前條規定ノ要修理車ヲ當該年式ノ新車同様ニ再生ヲ爲スニ非ザレバ再生ノ義務ヲ果シタリト言フヲ得ズ
 - 第四條 修理要求廳ハ豫メ搬入ノ時期ヲ會社ニ問合ノ上要修理車ヲ送附シ別紙様式第一ノ通知書ヲ三通作成シ一通ヲ會社へ他ノ二通ヲ經理局及關係部局へ送付スルモノトス
 - 第五條 會社ハ要修理車ノ搬入アリタルトキハ之ヲ受領シ海軍側立合ノ上該車ノ狀態ヲ検査シ不足部品修理箇所修理資材ニ關シ双方協定ノ上目錄トシテ預證ト共ニ要求廳へ送付ス
 - 第六條 會社ハ別紙様式第二ノ工事費調書ヲ作成シ要修理車作業着手ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ要求廳及經理局へ送付スルモノトス
 - 第七條 會社ハ要求廳ノ要求ニ應ジ可及的ニ原型ノ材料ヲ活用シツツ概ネ左記ニ就キ修理ヲ行フモノトス
- (一) 機 關 部
 - (二) 燃料裝置
 - (三) 電氣裝置
 - (四) 冷却裝置
 - (五) 吸排氣裝置
 - (六) 聯動裝置

一二七二

(七) 變速裝置	(八) 傳動裝置	(九) 差動裝置	(一〇) 制動裝置	(一一) 轉向操縱裝置	(一二) 車台パネ	(一三) 車軸	(一四) 車輪	(一五) 聯動裝置	(一六) 聯動機	(一七) 變速裝置	(一八) 變速機齒車室	(一九) 推進軸	(二〇) 差動裝置	(二一) 後車軸組	(二二) 制動裝置	(二三) 轉向操縱裝置	(二四) 車台パネ	(二五) 前車軸組	(二六) 前車輪	(二七) 前車軸組	(二八) 前車輪	(二九) 前車輪	(三〇) 前車輪	(三一) 前車輪	(三二) 前車輪	(三三) 前車輪	(三四) 前車輪	(三五) 前車輪	(三六) 前車輪	(三七) 前車輪	(三八) 前車輪	(三九) 前車輪	(四〇) 前車輪	(四一) 前車輪	(四二) 前車輪	(四三) 前車輪	(四四) 前車輪	(四五) 前車輪	(四六) 前車輪	(四七) 前車輪	(四八) 前車輪	(四九) 前車輪	(五〇) 前車輪	(五一) 前車輪	(五二) 前車輪	(五三) 前車輪	(五四) 前車輪	(五五) 前車輪	(五六) 前車輪	(五七) 前車輪	(五八) 前車輪	(五九) 前車輪	(六〇) 前車輪	(六一) 前車輪	(六二) 前車輪	(六三) 前車輪	(六四) 前車輪	(六五) 前車輪	(六六) 前車輪	(六七) 前車輪	(六八) 前車輪	(六九) 前車輪	(七〇) 前車輪	(七一) 前車輪	(七二) 前車輪	(七三) 前車輪	(七四) 前車輪	(七五) 前車輪	(七六) 前車輪	(七七) 前車輪	(七八) 前車輪	(七九) 前車輪	(八〇) 前車輪	(八一) 前車輪	(八二) 前車輪	(八三) 前車輪	(八四) 前車輪	(八五) 前車輪	(八六) 前車輪	(八七) 前車輪	(八八) 前車輪	(八九) 前車輪	(九〇) 前車輪	(九一) 前車輪	(九二) 前車輪	(九三) 前車輪	(九四) 前車輪	(九五) 前車輪	(九六) 前車輪	(九七) 前車輪	(九八) 前車輪	(九九) 前車輪	(一〇〇) 前車輪						
(一) 機關部	(二) 燃料裝置	(三) 電氣裝置	(四) 蓄電池	(五) 始動電動機	(六) 充電發電機	(七) 前照燈	(八) 配電器	(九) 點火線輪	(一〇) 氣筒	(一一) 氣筒頭	(一二) 曲軸	(一三) 氣筒	(一四) 氣筒頭	(一五) 曲軸	(一六) 氣筒	(一七) 氣筒頭	(一八) 曲軸	(一九) 氣筒	(二〇) 氣筒頭	(二一) 曲軸	(二二) 氣筒	(二三) 氣筒頭	(二四) 曲軸	(二五) 氣筒	(二六) 氣筒頭	(二七) 曲軸	(二八) 氣筒	(二九) 氣筒頭	(三〇) 曲軸	(三一) 氣筒	(三二) 氣筒頭	(三三) 曲軸	(三四) 氣筒	(三五) 氣筒頭	(三六) 曲軸	(三七) 氣筒	(三八) 氣筒頭	(三九) 曲軸	(四〇) 氣筒	(四一) 氣筒頭	(四二) 曲軸	(四三) 氣筒	(四四) 氣筒頭	(四五) 曲軸	(四六) 氣筒	(四七) 氣筒頭	(四八) 曲軸	(四九) 氣筒	(五〇) 氣筒頭	(五一) 曲軸	(五二) 氣筒	(五三) 氣筒頭	(五四) 曲軸	(五五) 氣筒	(五六) 氣筒頭	(五七) 曲軸	(五八) 氣筒	(五九) 氣筒頭	(六〇) 曲軸	(六一) 氣筒	(六二) 氣筒頭	(六三) 曲軸	(六四) 氣筒	(六五) 氣筒頭	(六六) 曲軸	(六七) 氣筒	(六八) 氣筒頭	(六九) 曲軸	(七〇) 氣筒	(七一) 氣筒頭	(七二) 曲軸	(七三) 氣筒	(七四) 氣筒頭	(七五) 曲軸	(七六) 氣筒	(七七) 氣筒頭	(七八) 曲軸	(七九) 氣筒	(八〇) 氣筒頭	(八一) 曲軸	(八二) 氣筒	(八三) 氣筒頭	(八四) 曲軸	(八五) 氣筒	(八六) 氣筒頭	(八七) 曲軸	(八八) 氣筒	(八九) 氣筒頭	(九〇) 曲軸	(九一) 氣筒	(九二) 氣筒頭	(九三) 曲軸	(九四) 氣筒	(九五) 氣筒頭	(九六) 曲軸	(九七) 氣筒	(九八) 氣筒頭	(九九) 曲軸	(一〇〇) 氣筒

(ニ) 背 褥

(イ) 荷 櫃 (ロ) 荷 台

第十條 會社ハ修理完了セバ其ノ旨要求廳へ通知シ引取ヲ求ムルモノトス

受領検査ハ別紙第三仕様書ヲ規準トシテ行ハルルモ實施方法及合格不合格ノ判定ハ検査官ノ定ムルトコロニ依リ會社ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第十一條 海軍監督官竝ニ係官ハ隨時會社ノ再生工場及材料貯藏所ニ臨ミ點檢監督ヲ爲スコトヲ得

第十二條 會社ニ於テ要修理車ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ要求廳ノ指示ニヨリ代品ノ提供修理ノ負擔又ハ賠償ヲ爲スモノトス但シ要求要求廳ニ於テ不可抗力ニヨルモノト認定シタル場合ハコノ限ニ非ズ

第十三條 要修理車ノ所有權ハ改修材料ノ附合若ハ加工等ニヨリ會社ニ移轉スルコトナシ又會社ニ於テ附合シタル材料ノ所有權ハ完成検査ニ合格シ官ノ受領ヲ證スル證書ヲ交附シタルトキヲ以テ官ニ移轉スルモノトシ之ガ移轉前ニ於ケル一切ノ危險ハ會社ノ負擔トス

第十四條 再生受領後滿一ケ年以内ニ隠レタル瑕疵ヲ發見シ又ハ天災ソノ他防制スベカラザル事故ニ因ルニ非ズシテ不良箇所ヲ生ジタル場合會社ハ要求廳ノ指示ニ從ヒ無償修補ヲナスモノトス

第十五條 報酬ハ再生車ノ受授完了後會社ノ請求ニ對シ制規ノ手續ヲ經テ概ネ十五日以内ニ支拂フモノトス
右協定ノ證トシテ本書二通ヲ作成シ各自署名捺印シ各ソノ一通ヲ保有ス
昭和十九年八月一日

海軍省經理局長 山本 丑之助
日産自動車株式會社
取締役社長 淺原 源七
(別紙添)

海人三第一〇號ノ二九三
昭和十九年九月二十日

海軍省人事局長

關係各廳長 殿

士官、特務士官及豫備士官等ノ任用進級竝ニ
増俸時期ニ關スル件申進

本年度後期ニ於ケル士官、特務士官(召集中ノ者ヲ含ム)及召集中ノ豫備士官ノ任用進級竝ニ士官ノ増俸ハ左記ニ依リ實施セラルル豫定ニ有之候

記

一 任用進級實施期日

(イ) 士官及召集中ノ豫備士官ノ進級 十月十五日
但シ右ノ中一部ノ者ニ就テハ十一月一日及十二月十五日
(ロ) 特務士官及准士官ノ任用進級 十一月一日
二 士官(豫備士官ヲ含ム)ノ増俸 十二月一日

秘海軍公報 第四八〇六號 昭和十九年九月二十一日

二七三

教育機密第三二四號

昭和十九年九月十七日

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長

海軍下士官候補者教育等ニ關スル件申進

今期海軍下士官候補者ノ教育ハ本年官房教育機密第一八三號及教育機密第一四八號ニ據ルノ外左記ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

記

- 一 本教育中基礎教育期間ヲ約二月トス
- 二 下士官候補者中普通科練習生教程終了者ハ基礎教育終了セバ下士官候補者教育ヲ終了シタモノト看做シ下士官ニ任用ス

○ 雜 款

○司令驅逐艦指定

第三十三驅逐隊司令ハ九月四日司令驅逐艦ヲ濱波ニ指定セリ

○從軍年加算ニ關スル件照會

今般内閣告示第十五號ヲ以テ昭和十八年五月十三日以後下島列島及其ノ港域ニ在リ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項ノ規定ニ依リ戰務乙ヲ加算セラルルコトト相成候ニ付昭和十八年五月十三日以降當隊ヨリノ轉勤者ニ對シ左記事項調査ノ上本人履歷書(表)記入相成度

記

- 一、加算取得記事ハ昭和十八年五月十三日以後ニ對スル分ヲ「戰務乙」ト訂正ス。
- 一、右加算取得ニ依リ敍勳資格發生者ニ對シテハ速ニ調査其中ヲ要ス

(第四五二海軍航空隊)

○所在地ニ關スル件

當隊所在地左記ノ通ニ有之候處往々ニシテ雁ノ集飛行場(福岡航空基地ト稱スルモノアリ)ト混同シ易キニ付轉勤並ニ郵便物送達等ニ際シ錯誤ナキ様留意相成度

記

福岡縣糸島郡周船寺村

(福岡海軍航空隊)

○移轉

當隊九月五日吳海軍施設部ヨリ宮崎縣北諸縣郡三股村ニ移轉事務ヲ開始セリ

追テ當隊ヘノ轉勤者ハ自今宮崎縣北諸縣郡三股村ニ向ケ轉勤セシメラレ度(日豊線三股驛下車)

(第三百十六設營隊)

2115

(別紙様式第一)

(昭和十九年九月二十一日秘海軍公報)

昭和 年 月 日			
(要求廳名)			
會社御中			
通 知 書			
要求番號	第 號	履行期限	昭和 年 月 日
要修理車名及式		要修理概略	下記ノ通
内 譯			
修理概略			
取 替 部 品			
備 考			

(別紙様式第二)

(昭和十九年九月二十一日秘海軍公報)

(整理番號)			
昭和 年 月 日		會社名	
御 申			
工 事 費 調 書			
修理車名型式		修 理 完 成 日 年 月 日	昭和 年 月 日
内 譯			
修 理 費 (工 費)			
材 料 費 (取 替 物 品 其 他)			
備 考			

(別紙第三)

再生日産自動車仕様書

(昭和十九年九月二十二日祕海軍全准)

本車ノ具備スベキ條件左ノ如シ

一 主要ナル寸法及重量

- 1 自重 重(準制式) 約三、〇〇〇疋
(急需型) 約二、八九〇疋
 - 2 全長(準制式) 五、四〇〇米
(急需型) 五、六八〇米
 - 3 全幅 二、一〇〇米
 - 4 全高 二、四〇〇米(運転臺最上端ニ於テ)
 - 5 最低地上高 〇、二三〇米
 - 6 軸間距離 三、二五一米
 - 7 轍間距離 (前輪一、六六四米 後輪一、六一〇米 後複輪一、六〇〇米)
- 二 完成車能力
- 1 積載重量 定量一、五〇〇疋 許容最大二、五〇〇疋
 - 2 最大速度 七〇軒 毎時以上
 - 3 登坂能力 五分ノ一以上(定量積載ニテ)
 - 4 最小回轉半徑五、三〇〇米前後
 - 5 燃料消費量經濟速度(約三五軒ノ時) 定量積載ノ場合毎時九立以下

(終)



海軍公報

第四八〇七號

昭和十九年九月二十二日(金)

海軍大臣官房

○令 謹

内令第一〇七二號

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム

昭和十九年九月十三日

海軍大臣

第二百十六號驅潛特務艦ノ載

内令撰

内令第一〇七三號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月十三日

海軍大臣

要登載

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十六號(高)ノ次ニ「第二百十六號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照)

内令第一〇八一號

海軍官衛學校ノ勤務員防衛ニ關シ海軍部隊ニ協力スル者ノ選定

昭和十九年九月十五日

海軍大臣

内令撰

大東亞戰爭中海軍大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ海軍官衛學校ノ勤

務員ヲシテ防衛ニ關シ海軍部隊ニ協力セシムルコトヲ得

内令第一〇八二號

昭和十九年内令第一〇八一號海軍官衛學校ノ勤務員防衛ニ關シ海軍部隊ニ協力ノ件ニ關シテハ最寄ノ海軍部隊ニ協力セシムルコトヲ得

前項ノ協力ノ實施ニ付テハ所屬長官ノ定ムル所ニ依ル但シ海軍部隊他所屬ノモノナルトキハ其ノ所屬ノ司令長官ニ其ノ旨通報スベシ

昭和十九年九月十五日

海軍大臣

内令第一〇八四號

右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル

海軍大臣

佐世保領守府在籍
第二十三號海防艦

舞鶴領守府在籍

第二十三號海防艦

第六十一號海防艦

第六十一號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

第一百十一號輸送艦

右本籍ヲ吳領守府ト定メラル

秘海軍公報 第四八〇七號

昭和十九年九月二十二日

一二七五

<p>昭和十九年九月十五日 海軍大臣</p>	<p>内令第一〇八五號 特設驅潛隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年九月十五日 海軍大臣 登載</p>	<p>内令第一〇八六號 昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年九月十五日 海軍大臣 登載</p>	<p>第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「照風丸(舞)」ノ前ニ「第一鈴谷丸(吳)、第二鈴谷丸(吳)、第三鈴谷丸(吳)」ヲ加フ 第二十五特別根據地隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄ニ「檜丸(吳)」ヲ加ヘ特設驅潛艇ノ欄「第一鈴谷丸(吳)、第二鈴谷丸(吳)」ヲ加ヘ特設驅潛艇ノ欄「第一鈴谷丸(吳)、第二鈴谷丸(吳)」ニ改ム 第八十一警備隊ノ項特設監視艇ノ欄「紀洋丸(舞)」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)</p>
<p>昭和十九年九月十五日 海軍大臣</p>	<p>第一監視艇隊ノ項中「三重丸、第一福徳丸」ヲ削ル 第三監視艇隊ノ項中「第拾振興丸」ヲ削ル 第四監視艇隊ノ項中「第一振興丸」ヲ削ル (内令提要卷一、一五三頁参照)</p>	<p>内令第一〇八八號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年九月十五日 海軍大臣 登載</p>	<p>内令第一〇八九號 第五十三號驅潛特務艇 右本籍ヲ鎮海警備府ト定メタル處之ヲ解ク 昭和十九年九月十五日 海軍大臣 登載</p>
<p>内令第一〇八七號 特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル</p>	<p>漁船 三重丸 第一福徳丸 第一振興丸</p>		

<p>右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 同 第拾振興丸 同 紀洋丸 右特設監視艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 昭和十九年九月十五日 海軍大臣</p>	<p>官房人機密第一七四八號 所屬長官ハ九月三十日現在員(特ニ指定スル者ヲ除ク)ニ付左 記標準ニ依リ臨時賞與ヲ支給スベシ 昭和十九年九月二十日 海軍大臣</p> <p>記 分 賞與額(本俸又ハ給料ニ付)</p> <p>軍人(昭和十九年六月一日以後海軍ニ入團又ハ入隊等ノ兵ヲ除ク) 文官同待遇者 賜託者(一時ノ報酬ヲ受クル者及本官アル者ヲ除ク) 雇員備人(月給者) 同(日給者)</p> <p>官房機密第一五五七號 昭和十八年官房機密第三八一號中左ノ通改正ス 昭和十九年九月二十日</p>
<p>海軍大臣 第一號ヲ左ノ如ク改ム 一 戰時増俸、航海加俸、在勤加俸及僻地在勤手當 配員セラレタル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ付定メラレタル額ヲ支給ス 内地ニ在ル海兵團ニ於テ基礎教育ヲ受クル者ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ戰時増俸ハ之ヲ支給セズ 第一項ノ規定ニ依リ海軍戰時特例給與規則第一表ノ増俸ノ支給ヲ受クル者ニハ在勤加俸及僻地在勤手當ハ之ヲ支給セズ 第二號及第三號ヲ削リ第四號ヲ第二號トス 附則 本令ハ昭和十九年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス (参照) 海軍機密會計法規類集一三〇ノ三頁</p>	<p>官房機密第一五五七號 昭和十九年九月二十日 海軍大臣 「當分ノ開軍人軍屬ノ旅費ノ特例」ヲ「戰時軍人軍屬旅費特例」ニ改ム 第二條、第四條乃至第八條及第十條中「別表」ヲ「別表第二」ニ改ム 第十一條ノ二 新ニ任用、採用、囑託セラレ若ハ任用、採用、</p>

祕海軍公報 第四八〇七號 昭和十九年九月二十二日

囑託ノ爲召喚セラレ又ハ召集若ハ徵用セラレ赴任、出頭又ハ入團ノ爲本邦内ヲ旅行スル者ニ付テハ左ノ地ヲ旅費支給上ノ本人ノ居住地(現住地及現在地ヲ含ム以下同ジ)ト看做スコトヲ得

(イ) 任用、採用、囑託セラレ若ハ任用、採用、囑託ノ爲召喚セラレ又ハ召集セラレ赴任、出頭又ハ入團スル者ニ在リテハ本人居住地ノ最寄ノ鐵道ノ旅客取扱驛所在地又ハ乗船スベキ汽船ノ乗船地

(ロ) 該當スル者ニシテ採用等ノ爲試驗ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ受験地

(ハ) 徵用セラレ出頭スル者ニ在リテハ本人ノ居住地ヲ管轄スル國民職業指導所(之ニ準ズルモノヲ含ム)所在地

前項ノ規定ハ海軍内國旅費規則第六十一條ノ規定ニ該當スルトキ若ハ任用、採用、囑託セラルルニ至ラズシテ歸還スルトキ又ハ徵用ヲ解除セラレ歸郷(復歸ヲ含ム)スルトキニ之ヲ準用ス

第十一條ノ三 前條ノ規定ニ該當スル者旅程陸路二十五糎未滿、鐵道百糎未滿又ハ水路五十糎未滿ノ旅行ニ在リテハ海軍内國旅費規則ノ規定ニ拘ラズ日額二圓ヲ支給シ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料及食卓料ハ之ヲ支給セザルコトヲ得但シ旅程陸路八糎未滿、鐵道三十糎未滿又ハ水路十六糎未滿ノ旅行ニ在リテハ日額一圓トス

第十一條ノ四 海軍内國旅費規則ノ適用ヲ受ケタル者一旅行中ノ

陸路旅程十糎未滿ナルトキハ所轄長特ニ必要アリト認メタル場合ノ外同則第十八條及第二十二條ノ規定ニ拘ラズ車馬賃ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

第十一條ノ五 新ニ囑託、徵用又ハ採用セラレ戰地ニ在ル部隊其ノ他ノ各部ニ赴任スル者出發前戰地外ノ地ニ於テ待機中ハ之ヲ官ノ宿舍ニ起臥セシメ一食ニ付三十錢ノ食料ヲ支給スルコトヲ得

旅費ノ支給ヲ受ケベキ者前項ノ規定ニ該當スル場合ハ宿舍ニ起臥ヲ始メタル日ヨリ翌日ヨリ出發ノ日ノ前日迄旅費ヲ支給セズ

第十一條ノ六 徵用船舶ノ保管、整備等ノ爲當該船舶所在ノ地ニ出張滞在スル者ニ支給スル旅費ハ目的地ニ到着ノ日ヨリ翌日ヨリ其ノ地發程又ハ當該船舶ニ乗組ヲ命ゼラレタル日ノ前日迄海軍内國旅費規則第七表ノ宿泊料ノミトス

第十一條ノ七 海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地域ニ在ル海軍ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル海軍文官海軍部外ノ文官ニ轉官シタル場合赴任旅行ヲ爲ストキハ出發前ニ於テ轉官直前ノ海軍ニ於ケル旅費等級ニ依リ海軍所定ノ赴任旅費(家族移轉料ヲ除ク)ヲ支給スルコトヲ得

支出官又ハ資金前渡官更前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給シタルトキハ海軍給與令施行細則第百六十九號第一項ノ規定ニ準ジ海軍省經理局長及本人ノ新所屬長ニ之ヲ通報スルモノトス

第十一條ノ八 特設海上護衛隊ノ運航統制ノ配置ニ在ル職員及

特設護衛船團司令部ノ職員當該用務ノ爲艦船ニ乗組中ハ航海
加俸及食料ヲ支給シ所屬司令部又ハ派遣所在地外ノ本邦陸上
ニ於テ宿泊スル場合ハ其ノ間別表第二ニ依リ、本邦ト戰地ト
ノ間又ハ戰地相互間ヲ旅行スル場合ハ別表第一ニ依リ旅費ヲ
支給ス

第十八條ノ二 支那ニ在ル部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍屬
(囑託者及工員ヲ含ム)勤務地ヨリ家族ヲ移轉スル爲家族移轉
料ノ支給ヲ受ケントスルトキハ海軍外國旅費規則第二十六條
ノ規定ニ拘ラズ所屬長官ノ認許ヲ受クルモノトス

第十九條中「追尾旅行ヲ爲シタル場合」ノ下ニ「又ハ海軍内國
旅費規則第十五條ノ規定ニ該當スル場合」ヲ加フ

第二十條ノ四 隊伍旅行トハ海軍内國旅費規則第十九條、第二
十條、第二十二條、第三十條及第三十一條、海軍南洋群島關

東州滿洲旅費規則第六條、第十一條、第十三條及第十四條並
ニ海軍外國旅費規則第六條及第十條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號
ニ該當シ指揮者又ハ先任者ノ指揮又ハ取締ノ下ニ五人以上一

團ト爲リテ旅行スル場合ヲ謂フ
一 行軍、演習又ハ戰技訓練ニ依ル旅行ヲ爲ストキ
二 部隊其ノ他ノ各部ノ移轉又ハ基地(作業地等ヲ含ム)進
出ノ爲旅行ヲ爲ストキ

三 艦船ノ所管又ハ所屬ノ變更ニ依リ旅行ヲ爲ストキ
四 教育、講習若ハ實習ヲ受クル爲又ハ見學ノ爲旅行スルト
キ

秘海軍公報 第四八〇七號 昭和十九年九月二十二日

附則

本令ハ昭和十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十一條ノ八ノ
改正規定ハ昭和十九年八月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
昭和十五年官房第六四六八號、昭和十八年官房第八四六號、
同第九六九號及同第一一九七號ハ之ヲ廢止ス

(別表添)

- (參照) 昭和十五年官房第六四六八號 海軍會計法規類集二卷 八〇八ノ四四ノ二頁
- 昭和十八年官房經第八四六號 海軍機密會計法規類集一三〇ノ八五頁
- 昭和十八年官房經第九六九號 海軍會計法規類集二卷 五二頁
- 昭和十八年官房經第二九七號 海軍會計法規類集二卷 五八ノ六頁
- 昭和十九年官房經第八八號 海軍機密會計法規類集二三〇ノ七〇頁

○ 通 牒

海人三機密第一〇號ノ六八
昭和十九年九月二十日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

關係各所轄長殿

臨時賞與支給ニ關スル件申進

本年官房人機密第一七四八號ニ依ル臨時賞與ハ本年海人三機密
第一〇號ノ四二ニ依ルノ外左記ニ依リ取扱フモノト了知相成度

記

一 各省(廳)職員トシテ專任セラレタル定員外海軍武官ニシテ本年九月三十日迄ニ海軍ニ復歸シタルモノニ對シテハ其ノ勤務期間ヲ海軍ニ於ケル勤務期間ニ通算シ算出シタル金額ヲ現所屬廳ニ於テ支給ス

二 昭和十六年勅令第千二百四號ニ依リ部外ノ文官同待遇者ヨリ海軍文官同待遇者ニ轉官職セシメラレタルモノ及明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官廳ヲ定員外ト爲リ海軍ニ勤務セシメラレタルモノ(以下臨時職員ト稱ス)ニ對シテハ左ニ依ルモノトス

(イ) 九月三十日現在ニ於テ臨時職員タリシ者ニ對シテハ本賞與ノ全期間勤務セシモノト看做シ賞與金全額ヲ現所屬廳ニ於テ支給ス

(ロ) 九月三十日以前海軍ヨリ轉出スル臨時職員ニ對シテハ支給セズ

三 前各號ニ該當スル者ノ中九月三十日附ヲ以テ發令ノ者ニ對シテハ新所屬省(廳)ニ於テ其ノ賞與金全額ヲ支給スルモノトス

○ 雜 款

大東亞戰爭戰歿者故海軍中佐橋本正雄外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來九月二十六日〇八二〇佐世保市海軍凱旋記念館ニ於テ佛式ニ依リ執行

○本日海軍公報發行セズ

(官房經第一五五六號別表第二)

(昭和十九年九月二十二日祕海軍公報)

考 備	口 額		旅 費 等 級
	乙	甲	
一 本表甲額ハ陸上ニ宿泊スル場合日數ニ應ジ之ヲ支給ス但シ官ヨリ宿舍ヲ貸與シタルトキハ乙額トス 二 糧食ヲ給與シタルトキハ一食ニ付三十錢ヲ減額ス	六〇〇	一〇五〇 ^(四)	二 等
	五五〇	八五〇 ^(四)	三 等
	四五〇	七五〇 ^(四)	四 等
	四〇〇	六〇〇 ^(四)	五 等
	三〇〇	四五〇 ^(四)	六 等
	二〇〇	三五〇 ^(四)	七 等
	一五〇	三〇〇 ^(四)	八、九 等

海軍公報

第四八〇八號

海軍大臣官房

昭和十九年九月二十五日(月)

○令 達

達第三一八號

海軍徵備船船員給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十二日

海軍大臣

第二條ノ二 徵備船員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ報酬、給料、増俸、戰時手當、航海手當及臨時手當ハ其ノ月分ヲ含ミ三月分以内ニ於テ前金拂ヲ爲スコトヲ得

一 戰地ニ在ルトキ

二 戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地相互間ヲ赴任、轉勤又ハ一時往復スルトキ

三 航海ヲ爲ストキ

第二條ノ三 乘組船舶ノ破壊、沈没其ノ他公務上ノ非常ノ災害ニ因リ廳長必要アリト認メタルトキハ報酬、給料、増俸、戰時手當、航海手當及臨時手當ノ一月分ヲ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第二條ノ四 徵備船員ニシテ戰地ニ在ルモノ、派遣セララルモノ若ハ一時往復スルモノ又ハ航海中ノモノノ死亡シタルトキハ死亡公表ノ日ノ屬スル月分迄從前ノ報酬、給料、増俸、戰時手當、航海手當及臨時手當ヲ支給ス但シ死亡公表ヲ爲シタル場合ト雖モ前金拂ヲ爲シタル報酬、給料、増俸、戰時手當、

航海手當及臨時手當ニ付テハ前金拂ノ日ノ現在ノ報酬、給料、増俸、戰時手當、航海手當及臨時手當ニ依リ其ノ前金拂ニ係ル月分迄之ヲ支給ス

死亡ノ日昇給アリタル場合ニシテ死亡ノ月ニ於テ死亡公表アリタルトキハ前項本文ノ規定ニ拘ラズ辭令ノ日以後新給額ヲ支給ス

死亡ノ日ノ屬スル月ノ翌月以後ノ臨時手當ハ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ其ノ支給ヲ停止ス

第七條ノ三 甲 船員戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戰地外ニ於テ入院又ハ療養ヲ爲ストキハ指定地ニ到着ノ翌日ヨリ退院又ハ療養地出發ノ日迄部内限判任官待遇以上ノ者ニ在リテハ報酬ノ五分ノ一、雇員傭人ニ在リテハ給料ノ四分ノ一ノ増俸ヲ支給ス

乙 船員ニシテ前項ノ規定ニ該當スルモノ在ルトキハ其ノ期間第二表戰時手當ノ二分ノ一ヲ支給ス

第八條中「海軍戰時給與規則第九條ニ依リ派遣手當ヲ支給ス」ヲ「海軍戰時特例給與規則第十條ノ二ノ規定ヲ準用ス」ニ改ム

第二十條 徵備船員死亡シタルトキハ官ニ於テ之ヲ埋葬シ又ハ其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族若ハ故舊ニ引渡ス爲必要ナル諸費ハ之ヲ官費支辨トス

秘海軍公報 第四八〇八號 昭和十九年九月二十五日

一一八一

秘海軍公報 第四八〇八號 昭和十九年九月二十五日

徵備船員死亡シタル場合ニ於テ其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族又ハ故舊ニ引渡ストキハ第六表ノ二ニ依リ葬祭料ヲ支給ス
 第二十二條削除
 第二十六條中「、在外海軍部隊艦船臨時給與令、同施行細則」ヲ削ル
 第三表中「三、六〇〇圓」ヲ「三、二四〇圓」ニ、「雇員備人給與規則第三表又ハ昭和十七年官房機密第二二四號」ヲ「海軍戰時特例給與規則第五條ノ二」ニ改ム

第六表ノ二 葬祭料		區分	金額
雇員	備人	部内限奉任待遇者但シ年報酬三、二四〇圓以上ノ者	八二〇〇
		前項ニ該當セザル部内限奉任待遇者	五〇〇〇
		報酬月額百五圓以上ノ部内限奉任待遇者	六七〇〇
		前項ニ該當セザル部内限奉任待遇者	五〇〇〇
		前項ニ該當セザル部内限奉任待遇者	四五〇〇
		雇員	三七〇〇
		備人	五〇〇〇

(參照) 海軍機密會計法規類集一三〇ノ七頁

内令第一〇八四號ノ二
 右本籍ヲ舞鶴鎮守府卜定メラル

第六十七號海防

内令提
 登載

昭和十九年九月十五日

海軍大臣

内令第一〇九一號

第一百五十九號海防

内令提
 登載

右本籍ヲ吳鎮守府卜定メラル

昭和十九年九月十六日

海軍大臣

内令第一〇九二號

内令提
 登載

氣象圖誌經理規程左ノ通定ム

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

氣象圖誌經理規程

第一條 本規程ニ於テ氣象圖誌ト稱スルハ秘密氣象圖誌及普通氣象圖誌ノ各定數表及各貨與品表ニ掲ゲタル左ノ各號ノ圖誌並ニ其ノ製造用材料品ヲ謂フ

一 秘密氣象圖誌

(イ) 秘密氣象書誌

(ロ) 秘密氣象圖

(ハ) 秘密ニ屬スル假製ノ氣象關係圖誌(欄外又ハ表紙ニ「假製」ト朱書又ハ墨書ス)

(ニ) 氣象ニ關スル機密報告用紙類

二 普通氣象圖誌

普通氣象圖誌

普通氣象圖

(ハ)(ロ)(イ)
機密ニ屬セザル假製ノ氣象關係圖誌(欄外又ハ表紙ニ「假製」ト朱書又ハ墨書ス)

(ニ)
氣象ニ關スル普通報告用紙類

第二條 氣象圖誌ハ之ヲ分チテ備品、消耗品、材料品及貸與品トス

第三條 備品及消耗品ハ各定數表ニ依リ貸與品ハ各貸與品表ニ依リ之ヲ供給又ハ貸與ス

第四條 氣象圖誌ノ各定數表及各貸與品表ハ海軍大臣ノ承認ヲ得テ海軍氣象部長之ヲ定ム

第五條 祕密氣象圖誌及普通氣象圖誌補給用トシテ兵備品會計官吏ノ準備スベキ數量ハ海軍氣象部長之ヲ定ム

第六條 艦船部隊其ノ他各部ニ要スル氣象圖誌ハ左ノ各號ニ定ムル各海軍軍需部又ハ海軍氣象部ノ兵備品會計官吏之ヲ供給ス

一 艦船部隊其ノ他各部ニ要スルモノハ第二號以下ニ定ムルモノノ外在籍又ハ所屬ノ鎮守府又ハ警備隊所在地ニ在ル海軍軍需部

二 聯合艦隊、第一艦隊、第二艦隊及同所屬戰隊ノ司令部用ノモノハ吳海軍軍需部

三 支那方面艦隊及同所屬戰隊ノ司令部用ノモノハ佐世保海軍軍需部

四 前二號以外ノ艦隊及同所屬戰隊ノ司令部用ノモノハ横須賀海軍軍需部

五 鎮守府又ハ警備府ニ屬セザル各廳、特設氣象隊及東京所
在ノ各廳ニ要スルモノハ海軍氣象部

第七條 定數表ニ依リ氣象圖誌ノ供給ヲ受クルコト能ハザル各廳等ニ於テ臨時之方必要ヲ生ジタルトキ又ハ艦船部隊其ノ他各部ニ於テ定數以外ニ臨時之方必要ヲ生ジタルトキハ兵備品會計官吏ニ於テ一時之ヲ貸與スルコトヲ得但シ待從武官、東宮武官、皇族附武官、大公使節附武官、朝鮮若ハ臺灣總督府ノ御用掛タル武官、各地在勤武官、海外派遣員又ハ海軍部外ニ於テ祕密氣象圖誌ヲ要スルモノアルトキハ海軍大臣ノ承認ヲ得タルモノニ限リ一時之ヲ貸與スルコトヲ得

海軍氣象部會計官吏ハ特別ノ理由アル場合ハ材料品タル圖誌ヲ貸與スルコトヲ得

第八條 氣象圖誌ヲ借用セントスルモノハ借用票(海軍兵備品會計規程第六號様式)ニ理由及期限ヲ附記シ兵備品會計官吏ニ之ヲ請求スベシ

借用シタル氣象圖誌ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ズ又特別ノ理由アルモノヲ除クノ外貸與期間ヲ一年以内トス

第九條 兵備品會計官吏ハ必要ニ應ジ氣象圖誌ヲ他ノ兵備品會計官吏ノ供給又ハ貸與スベキ各廳等ニ供給又ハ貸與スルコトヲ得

各廳等ニ於テ氣象圖誌ヲ選納セントスルトキ要スレバ最寄兵

備品會計官吏ニ之ヲ還納スルコトヲ得

前二項ノ場合兵備品會計官吏ハ保管轉換ノ手續ヲ爲スベシ

第十條 兵備品會計官吏又ハ兵備品取扱主任天災其ノ他ノ事故

ニ因リ其ノ保管ニ係ル氣象圖誌亡失、毀損等シタルトキハ事

由書(甲號書式)ヲ調製シテ兵備品出納命令官ニ之ヲ提出シ

其ノ指揮ヲ受クベシ但シ兵備品取扱主任ニ在リテハ所轄長ノ

證明ヲ得所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ之ヲ提出ス

ルモノトス

兵備品會計官吏其ノ保管ニ係ル秘密氣象圖誌中廢版ト爲リ

タルモノ又ハ將來使用ノ目的ナキモノ等不用ニ屬シタルモノ

ヲ燒却又ハ棄却セントスルトキ亦前項ノ規定ニ同ジ但シ將來

使用ノ目的ナキモノニ在リテハ海軍氣象部長ノ指定シタル圖

誌ニ限ルモノトス

第十一條 兵備品取扱主任ハ其ノ保管ニ係ル氣象圖誌ニシテ使

用ノ結果甚シク毀損シタルトキハ前條ノ規定ニ依ラズ兵備品

會計官吏ニ之ヲ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 兵備品會計官吏ハ其ノ保管ニ係ル普通氣象圖誌中修

理ヲ施スモ尙使用ニ堪ヘザルモノ又ハ廢版ト爲リタルモノ若

ハ將來使用ノ目的ナキモノ等不用ニ屬シタルモノハ適宜之ヲ

處分スベシ但シ將來使用ノ目的ナキモノニ在リテハ海軍氣象

部長ノ指定セル圖誌ニ限ルモノトス又廢版ト爲リタルモノニ

限リ兵備品取扱主任ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第十三條 海軍軍需部兵備品會計官吏ハ其ノ保管ニ係ル秘密氣

象圖誌ニシテ第十條ノ處分ヲ了シタルトキハ其ノ都度秘密氣
象圖誌處分報告(乙號書式)ヲ調製シ之ヲ海軍氣象部長ニ報
告スベシ

第十四條 海軍軍需部兵備品會計官吏ハ其ノ保管ニ係ル氣象圖

誌ニシテ離權(秘密氣象圖誌ヲ除ク)又ハ保管轉換(秘密氣

象圖誌ヲ海軍氣象部會計官吏ニ保管轉換シタル場合ヲ除ク)

等ニ依リ増減ヲ生ジタルトキハ秘密氣象圖誌ニ在リテハ其ノ

都度保管轉換領收票寫ヲ以テ其ノ増減ヲ、普通氣象圖誌ニ在

リテハ毎月一日調ヲ以テ前一月分ノ増減ヲ海軍氣象部長ニ報

告スベシ

第十五條 海軍氣象部長ハ氣象圖誌ニ關シ兵備品會計官吏ヲシ

テ必要ナル報告ヲ提出セシメ又ハ各兵備品會計官吏間ニ之ヲ

保管轉換ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 兵備品取扱主任秘密氣象圖誌借用者ハ毎年十一月一

日調ヲ以テ秘密氣象圖誌現有調書(丙號書式)ヲ調製シ十一

月十五日迄ニ所屬兵備品會計官吏ニ報告スベシ

兵備品會計官吏前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ帳簿ニ

照會シ更ニ十一月一日ニ於テ調査シタル在庫數ヲ之ニ合シ秘

密氣象圖誌現有調書(丁號書式及同別紙)ヲ調製シ十二月十

五日迄ニ海軍氣象部長ニ報告スベシ

第十七條 氣象圖誌ノ證憑書類ハ兵備品會計規程第二十八條ノ

規定ニ依ルノ外秘密氣象圖誌及普通氣象圖誌各別ニ之ヲ調製

スベシ

附則

本令ハ昭和十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
本規程中海軍兵備品會計規程戰時特例ト抵觸スル部分ニ付テハ
海軍兵備品會計規程戰時特例ニ依ル
本規程中ノ甲號書式、乙號書式、丙號書式、丁號書式及同別紙
ハ夫々水路圖誌及航空圖誌經理規程甲號書式、乙號書式、丙號
書式、丁號書式及同別紙ニ準ズ

内令第一〇九三號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

第二百四號驅潛特務艇

内令提
要登載

内令第一〇九四號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

内令提
要登載

舞鶴防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百九十五號（舞）」ノ次ニ
「第二百四號（舞）」ヲ加フ

（内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照）

内令第一〇九五號

特設通信隊及同分遣隊所在地、種別等ノ件申左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十日

内令提
要登載

秘海軍公報 第四八〇八號 昭和十九年九月二十五日

海軍大臣
吳鎮守府ノ部第十通信隊第四分遣隊ノ項中「甲、乙、丙、」ヲ
削ル

（内令提要卷一、六四頁参照）

内令第一〇九六號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改
正セラル

昭和十九年九月二十日

海軍大臣

佐世保鎮守府ノ部中第八五一海軍航空隊ノ項ヲ削ル

（内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照）

内令第一〇九七號

潛水隊編制申左ノ通改定セラル

昭和十九年九月二十日

海軍大臣

内令提
要登載

第十五潛水隊ノ項中「伊號第五十五」ノ下ニ「伊號第五十六」
ヲ加フ

（内令提要卷一、七〇頁参照）

内令第一〇九八號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

第二百一十一號驅潛特務艇
内令提
要登載

二二八五

昭和十九年九月二十日

海軍大臣

内令第一〇九九號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二百二號(横)」ノ次ニ「第二百一號(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照)

内令第一一〇〇號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十日

海軍大臣

第二魚雷艇隊ノ項中「14」ノ下ニ「15」ヲ加フ
第二十七魚雷艇隊ノ項中「417 419 426 427 430 441 443 444 448」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第一一〇一號

- 第四百十七號魚雷艇
- 第四百十九號魚雷艇
- 第四百二十六號魚雷艇
- 第四百二十七號魚雷艇

内令掲載

内令掲載

- 第四百三十號魚雷艇
- 第四百四十一號魚雷艇
- 第四百四十三號魚雷艇
- 第四百四十六號魚雷艇
- 第四百四十八號魚雷艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定メタル處之ヲ解ク

海軍大臣

内令第一一〇二號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十日

海軍大臣

特務艇、魚雷艇第四百十一號型ノ項中「第四百十七號」、「第四百十九號」、「第四百二十六號、第四百二十七號、第四百三十號」、「第四百四十一號」、「第四百四十三號」、「第四百四十六號、第四百四十八號」ヲ削ル

(内令提要卷三、四三頁参照)

官房經機密第一五六七號

海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十二日

海軍大臣

第一條中「軍屬」ヲ「軍屬及豫備員候補者」ニ改ム

内令掲載

第一條ノ二中「及増俸」ヲ、「諸加俸（海軍給與令第三章ニ規定スル加俸、潜水艦特別任務加俸、潜航艇加俸及航空加俸ヲ謂フ以下之ニ同ジ）、増俸、公務傷病手当及臨時手当並ニ豫備員候補者ノ手当及増給」ニ、「爲スコトヲ得」ヲ「爲シ又ハ翌月以後三月以内ノ適宜ノ時期迄之ヲ支給フ繰延ブルコトヲ得」ニ改ム

第一條ノ三 艦船ノ破壊、沈没其ノ他公務上非常ノ災害ニ因リ廳長必要アリト認メタルトキハ俸給、給料、諸加俸、増俸、公務傷病手当及臨時手当並ニ豫備員候補者ノ手当及増給ノ一月分ヲ前金拂フ爲スコトヲ得

第一條ノ四第一項中「屬スル月分迄」ノ下ニ「従前ノ」ヲ加ヘ「及増俸」ヲ、「諸加俸、増俸、公務傷病手当及臨時手当並ニ豫備員候補者ノ手当及増給」ニ、同第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

死亡ノ日任用、進級又ハ昇給アリタル場合ニシテ死亡ノ月ニ於テ死亡ノ公表アリタルトキハ前項本文ノ規定ニ拘ラズ辭令ノ日（文官ハ辭令ノ日ニ翌日）以後給額ヲ支給ス

死亡ノ日ノ屬スル月ノ翌月以後ノ臨時手当ハ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ其ノ支給ヲ停止ス

第一條ノ五 軍人軍屬ノ俸給、給料、諸加俸、増俸、公務傷病手当及臨時手当並ニ豫備員候補者ノ手当及増給ハ海軍給與令施行細則第十六條、第十九條、第二十一條及第四十五條並ニ其ノ他ノ規定ニ拘ラズ月ノ十六日以後ニ於テ其ノ月分ヲ支給ス

但シ所屬ヲ轉ジタルトキハ海軍給與令施行細則第十三條及第四十四條並ニ其ノ他ノ規定ニ拘ラズ其ノ際前勤務廳ニ於テ其ノ月分ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ前勤務廳ニ於テ支給シタル給與ニシテ前勤務廳退廳後生シタル事ハ依リ過拂、不足拂ト爲リタル金額ハ海軍給與令施行細則第一百七十一條ノ規定ニ拘ラズ後勤務廳ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

第二條ノ三第二項ヲ削ル

第二條ノ四「五分ノ一」ノ下ニ「（准士官以上、候補生、見習尉官ニシテ増俸月額十九圓ニ滿タザルトキハ月額十九圓）」ヲ加フ

第二條ノ五 第一條ノ地域ニ在ル部隊其ノ他ノ各部ニ在ル豫備員候補者ニハ第一表ノ二ニ依リ増給ヲ支給ス

第二條ノ三ノ規定ハ前項ノ増給ニ付之ヲ準用ス

第二條ノ六 豫備員候補者ニシテ戰地ニ派遣セララルモノ若ハ一時往復スルモノ又ハ戰地ト戰地外トノ間若ハ戰地相互間ヲ轉動スルモノニハ出發ノ日ヨリ到着又ハ歸着ノ日迄豫備員候補者ノ手当（海軍給與令第四十四條ノ二ノ規定ニ依リ加給セラルル分）及同令第九表備考ノ規定ニ依リ増給セララル分ヲ除ク）ノ二分ノ一ヲ増給トシテ支給ス

第二條ノ七 一日ノ増俸ニシテ支給額ヲ異ニスルトキハ其ノ多額ニ依ル

前項ノ規定ハ豫備員候補者ノ増給ニ付之ヲ準用ス

第二條ノ八 戦地ニ於テ勤務中傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戦地外ニ於テ療養中ハ指定病院又ハ療養地到着ノ翌日ヨリ退院又ハ療養地出發ノ日迄准士官以上文官同待遇者ニ在リテハ俸給ノ五分ノ一(准士官以上、候補生、見習尉官ニシテ増俸月額十九圓ニ滿タザルトキハ月額十九圓)、下士官兵及雇員傭人ニ在リテハ俸給又ハ給料ノ四分ノ一ノ戰時増俸ヲ支給ス戦地ニ一時往復ノ途中ニ於テ公務ニ起因スル傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ付亦同ジ

第二條ノ九 准士官以上公務ニ起因スル傷疾疾病ニ因リ待命ヲ命ゼラレタルトキハ待命中俸給ノ五分ノ一ノ公務傷病手当ヲ支給ス

前項ノ規定ニ該當スル者同項ニ規定スル傷疾疾病ニ因リ更ニ休職ヲ命ゼラレタルトキハ休職中五分ノ二ノ公務傷病手当ヲ支給ス

前二項ノ手当ノ支給區分ハ俸給支給ノ例ニ依ル

第二條ノ十 公務ニ起因スル傷疾疾病ニ依リ待命ヲ命ゼラレタル者アルトキ及其ノ者ニシテ當該傷疾疾病ニ因リ更ニ休職ヲ命ゼラレタル者アルトキハ海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ハ之ヲ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長ニ通報スルモノトス

第九條ノ二 新ニ士官、特務士官若ハ准士官ニ任用セラレ、候補生若ハ見習尉官ニ採用セラレ又ハ下士官ヨリ准士官ニ進級シタル場合ニハ海軍給與令第五十五條ノ規定ニ拘ラズ第四表ノ四ニ依リ初任手当ヲ支給ス新ニ豫備士官若ハ豫備准士官ニ

任用セラレ又ハ豫備下士官ヨリ豫備准士官ニ進級シタル場合ニ付亦同ジ

第十條ノ二中「第四表ノ四」ヲ「第四表ノ五」ニ改ム

第十條ノ三 海軍戰時給與規則第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條ヲ削リ第十一條ノ二ヲ第十一條トス

第十二條中「第四表ノ五」ヲ「第四表ノ六」ニ、「第四表ノ六」ヲ「第四表ノ七」ニ改ム

第二十一條ノ二 軍人軍屬及豫備員候補者死亡シタル場合(准士官以上、候補生、見習尉官及軍屬ニ在リテハ第二條若ハ第八條ノ二ノ規定ニ該當スル者、戦地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者、戦備完成ノ艦船部隊其ノ他各部ニ在ル者又ハ其ノ死亡公務ニ起因スル者ニ限ル)ニ於テハ官

ニ於テ之ヲ埋葬シ又ハ其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族若ハ故舊ニ引渡ス爲必要ナル諸費ハ官費支辨トス

軍人軍屬(准士官以上、候補生、見習尉官及軍屬ニ在リテハ

第二條若ハ第二條ノ二ノ規定ニ該當スル者、戦地ニ在ラザル

モ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者又ハ其ノ死亡ノ公務

ニ起因スル者ニ限ル)及豫備員候補者死亡シタル場合ニ於テ

其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族又ハ故舊ニ引渡ストキハ海軍

給與令第十章及海軍戰時給與規則第十五條ノ規定ニ拘ラズ其

ノ際第七表ニ依リ葬祭料ヲ支給ス艦營傭人(雇員傭人規則附

表第三ニ掲グル者ヲ謂フ以下之ニ同ジ)傭人地外ニ於テ死亡

シタル場合亦同ジ

第二十二條第一項第三號中「工員及職員」及但書ヲ削リ同條第三項中「採用セラレ」ノ下ニ「外地又ハ」ヲ加フ

第二十五條 對敵行動ヲ取ル特務艇及雜役船（乘員標準ノ定メアルモノニ限ル）ハ給與上之ヲ在役艦船ト看做ス

第一表ノイ中
一等兵 五二〇ノ次ニ

二等兵 三〇〇ヲ加フ

第二表ノ二中「三、六〇〇圓」ヲ「三、二四〇圓」ニ改ム

第四表備考中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス

第四表ノ四中「三百圓」ヲ「二百七十圓」ニ、
列任官一等ヲ

列任官一等 本俸又ハ報酬月額 百五圓以上ノ者	列任官四等 者ヲ含ム	列任官四等 本俸又ハ報酬月額 百五圓未満ノ者
------------------------------	---------------	------------------------------

改メ同表備考第二號中「又ハ第十條」ヲ削リ同表ヲ第四表ノ五
トス

附則

本令ハ昭和十九年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第二
條ノ五及第二條ノ六ノ改正規定ハ昭和十九年七月一日以後ノ給
與ニ付之ヲ適用ス

昭和十九年九月一日現ニ特務士官タリシ者ヨリ同日以後各科少
佐又ハ士官タル各科大尉ニ任用セラレタル場合ニ於テハ第四表

海軍軍公報 第四八〇八號 昭和十九年九月二十五日

ノ四備考第四號ノ規定ニ拘ラズ其ノ際初任手當トシテ七十圓ヲ
支給ス昭和十九年九月一日現ニ准士官タリシ者ヨリ同日以後任
用セラレタル特務士官更ニ各科少佐又ハ士官タル各科大尉ニ任
用セラレタル場合ニ付亦同シ

昭和十九年九月一日前海軍武官進級令第二十一條乃至第二十二
條ノ規定ニ依リ下士官ヨリ准士官ニ進級シタル者又ハ豫備士官
若ハ豫備准士官ニ任用セラレ若ハ進級シタル者昭和十九年九月
一日後初メテ召集セラレ勤務ニ服スルトキハ其ノ際初任手當ト
シテ二百圓ヲ支給ス

豫備役ニ在ル准士官以上（豫備士官及豫備准士官ヲ含ム）ニシ
テ昭和十九年九月一日現ニ召集ニ應ジ就職中ノモノ同日以後職
地ニ派遣セラルトキハ第十條ノ三ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前
ノ例ニ依リ海軍戰時給與規則第十條但書ノ規定ニ依ル手當金ヲ
支給ス

昭和九年官房第四九八三號及昭和十七年官房第五一七號ハ之ヲ
廢止ス

（別表添）

- （参照）海軍戰時特例給與規則
海軍機密會計法規類集一一六頁
- 昭和九年官房第四九八三號
海軍會計法規類集二卷二二三頁
- （作戦部隊用海軍會計法規類集一九六頁）
昭和十七年官房第五一七號
海軍機密會計法規類集一三〇ノ三一頁

○通 牒

航本機密兵無線第七五九號

昭和十九年九月二十一日

海軍航空本部總務部長

- 各鎮守府、各警備府、聯合艦隊
- 各方面艦隊、各航空艦隊
- 海上護衛、海軍練習聯合航空總隊
- 參謀長
- 第一、第二、第十一、海軍航空廠總務部長
- 第十二、第二十一、第三十一、海軍航空廠長
- 第四十一、第五十一、各廠長

水晶發振子及航空機用無線兵器用覆類等還納ノ件照會(通信長主管航空)

一 九六式空一號無線電話機及同改一用水晶發振子航空機用
 ①及(A)現有ノ向ニシテ主體還納又ハ亡失ニ依リ若クハ通
 信規程改正等ニ依リ不用トナリタルモノハ至急最寄海軍航空
 廠(特設ヲ除ク)ニ還納相成度

追テ所屬艦隊司令部等ヨリ借用中ノモノハ供用元司令部ニ
 返却ノコトトシ司令部ト隔在スル部隊ニ在リテハ前記ニ依
 リ還納ノ上供用元司令部ニ通知ノコトニ取計ハレ度

二 航空機用無線兵器用覆、格納箱、附屬品、補用品等ニシテ
 主體還納又ハ亡失ニ依リ不用トナリタルモノハ至急最寄海軍
 航空廠ニ還納相成度

三 海軍航空廠ハ第一項ニ依リ還納受シタル兵器ノ品名(周波

數及①(A)ノ種別ヲ記入)及數量ヲ當部第四部長宛通報相
 成度

○雜 款

○事務開始
 第五百七船舶防空隊ヲ八月十七日橫濱市花咲町四丁目三菱船渠
 假兵舎(假稱)内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一二二號艦艇裝員事務所ヲ九月十日大阪市港區南福崎町大阪
 造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第二十三號海防艦艇裝員事務所ハ九月十五日之ヲ撤去セリ

第六十一號海防艦艇裝員事務所ハ九月十五日之ヲ撤去セリ

第一五二一號艦艇裝員事務所ハ九月十五日之ヲ撤去セリ

○轉勤者赴任先

自今當隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度

一 准士官以上ハ鹿兒島縣鹿屋航空基地(同地ニテ二航艦副官
 ト連絡ノコト)或ハ口航便ニ依リ沖繩本島小祿基地

二 下士官及兵ハ佐世保海兵團假入團以後艦船便乘ニ依リ沖繩
 本島小祿基地

(南西諸島海軍航空隊)

○本日海軍公報發行セズ

(官房經機密第一五六七號別表)

第一表ノ二 豫備員候補者ノ増給

豫備員候補者		豫備員候補者		區分		日額	
生徒	其他ノ者	海軍豫備任用臨時特例ニ依リ採用ノ者	其他ノ者	日	額	日	額
二九〇	二九〇	四四〇	七三〇				
							二二〇

(昭和十九年九月二十五日祕海軍公報)

(官房経機密第一五六七號別表)

(昭和十九年九月二十五日祕海軍公報)

考 備	見 候	豫 備	准 特 士	區 分		
				金	額	
<p>一 海軍武官進級令第二十一條乃至第二十二條ノ規定ニ依リ下士官ヨリ准士官ニ進級シタル者ノ初任手當ハ二百圓トス</p> <p>前項ニ該當スル者引續キ召集中ナルトキ又ハ初メテ召集セラレ勤務ニ服スルトキハ其ノ際一回限り更ニ初任手當トシテ二百圓ヲ支給ス</p> <p>二 豫備士官又ハ豫備准士官初メテ召集セラレ勤務ニ服スルトキハ其ノ際一回限り更ニ初任手當トシテ二百圓ヲ支給ス豫備下士官ヨリ豫備准士官ニ進級シ引續キ召集中ナルトキ亦同シ</p> <p>三 豫備士官又ハ豫備准士官ヨリ士官又ハ准士官ニ任用セラレタルトキハ其ノ際初任手當トシテ二百圓ヲ支給ス但シ既ニ豫備士官又ハ豫備准士官ノ初任手當ヲ支給ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス</p> <p>四 特務士官又ハ豫備士官ヨリ士官ニ、准士官ヨリ特務士官ニ、又ハ豫備准士官ヨリ豫備士官若ハ准士官ニ任用セラレタル場合ニハ初任手當ハ之ヲ支給セズ</p>	習 尉 官 生	備 准 士 官	務 士 官	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇	四〇〇〇〇

(官房経機密第一五六七號別表)

(昭和十九年九月二十五日祕海軍公報)

第七表 葬 祭 料

考 備	區 分		區 分		
	金 額	金 額	金 額	金 額	
官ニ於テ埋葬セザル場合ハ生徒、學生、下士官、豫備學生及豫備生徒ニ在リテハ七十回、兵、豫備練習生、豫備 補習生及艦營備人ニ在リテハ五十五回ヲ支給スルコトヲ得	將 官	高等官二等以上	准 士 官	判任文官一等	
	高 等 官 二 等 以 上	一〇五〇〇〇	本俸又ハ報酬月額百五 回以上ノ判任待遇者 (部内限待遇者ヲ含ム)	五二五〇〇	
	佐 官	高等官五等以上 本俸又ハ報酬月額二百 七十回以上ノ奏任待遇 者(部内限待遇者ヲ含 ム)	八二五〇〇	判任文官二等乃至四等 本俸又ハ報酬月額百五 回未滿ノ判任待遇者 (部内限待遇者ヲ含ム)	四五〇〇〇
	尉 官	高等官六等以下 本俸又ハ報酬月額二百 七十回未滿ノ奏任待遇 者(部内限待遇者ヲ含 ム)	六七五〇〇	兵、豫備練習生 豫備補習生	共ノ他ノ者
特 務 士 官					
候 補 生 官					
見 習 尉 官					

海軍公報 第四八〇九號

昭和十九年九月二十六日(火)
海軍大臣官房

○令 達

官房需機密第三五四號

當分ノ間伊豆諸島及沖繩諸島ニ於ケル海軍工事又ハ作業等ニ從事スル軍人、軍屬(囑託者及工員ヲ含ム)及人夫ニハ必要ニ應ジ糧食ヲ給與スルコトヲ得
前項ノ糧食品ノ供給及整理ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ之ヲ通牒セシム
旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シ第一項ノ規定ニ依リ糧食ヲ給與シタルトキハ一食ニ付三十錢ヲ辨償セシメ之ヲ歳入ニ納付スルモノトス

昭和十九年九月二十二日

海軍大臣

○通 牒

軍需表第一一五號

昭和十九年九月二十三日

海軍省軍務局長
海軍省軍需局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長
各航空隊參謀長
各練習隊參謀長
海軍練習隊總隊長
海軍上衛隊參謀長

殿

秘海軍公報 第四八〇九號

昭和十九年九月二十六日

被服等修補ニ關スル件申進

織維及皮革資源逼迫ノ對策トシテ此等製品ノ命數延長ヲ圖ル爲本年官房經第三二四號ヲ以テ指導者ニ充ツベキ主計科下士官及兵ニ對シ海軍被服修補講習ヲ施行セラレ又今期以後卒業ノ海軍經理學校普通科衣糧術練習生ニ對シテハ被服ノ修補術及洗濯法ヲモ教育セラレアルニ付之ヲ全幅活用セラレ以テ一層被服ノ修補及洗濯ニ關シ萬全ヲ期スル如ク指導方取計相成度

軍需機密第一二八七號

昭和十九年九月二十五日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

伊豆諸島及沖繩諸島ニ於ケル海軍工事又ハ作業等ニ從事スル軍人、軍屬等ニ給與スル糧食品ノ供給及整理ニ關スル件通牒
今般官房需機密第三五四號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 供給元
橫須賀海軍軍需部
佐世保海軍軍需部、同那覇支部

二 供給手續及整理

(イ) 糧食品ノ供給ヲ受クル者ノ所屬廳ヨリノ請求ニ依リ供給スルモノトス

(ハ)(ロ) 供給元ハ供給ノ都度糧食品領收票ヲ徴スルモノトス 供給元必要アルトキハ現地所在艦船部隊ト協議ノ上當該艦船部隊ヲシテ之ヲ供給セシムルコトヲ得

艦船部隊前項ニ依リ供給シタルトキハ其ノ品名數量ヲ供給元ニ通知スルモノトス

(ニ) 供給元ハ三箇月毎ニ前三箇月分ノ供給量ヲ取纏メ供給集計表(別紙様式)ヲ作製シ海軍省軍需局、供給先廳及其ノ主務部局(海軍施設本部、海軍航空本部、海軍艦政本部等)ニ各一通ヲ送付スルモノトス

(ホ) 供給元(ハ)該當艦船部隊ヲ含ムハ供給拂トシテ整理シ受給廳ハ適宜責任者ヲ指定シ適宜ノ帳簿ニ依リ其ノ受拂ヲ明カナラシムルモノトス

(ヘ) 供給單價ハ時價ヲ參酌シ供給元ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

三 豫算移用

供給先廳ノ主務部局ハ前號(ニ)ノ供給集計表ニ依リ供給金額ニ相當スル豫算ヲ海軍省軍需局ニ移用スルモノトス (別紙添)

○ 雜 款

○ 事務開始

母島警備隊ハ九月五日開隊、横須賀潜水艦基地隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

海防艦久米巖裝員事務所ヲ九月十一日日立造船海軍裝員事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二百十八號驅潛特務艇裝員事務所ヲ舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

海防艦新南巖裝員事務所ヲ九月十六日横須賀市谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第五十號海防艦裝員事務所ヲ九月十六日東京都深川區豊洲町石川島造船所深川分工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二百五號海防艦裝員事務所ヲ九月十八日新潟市附舟町株式會社新潟鐵工場新工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 正誤

九月二十二日附秘海軍公報令達欄内令第一〇八二號ノ項中「協力セシムルモノトス」ハ「協力セシムルモノトス」ノ、同二十五日附秘海軍公報令達欄内令第一一〇〇號發布日附「九月二十五日」ハ「九月二十日」ノ執モ誤

○ 本日海軍公報發行セズ

(軍需機密糧第二八七號別紙)

昭和 年 月 日

海軍省軍需局
供給先應
右ノ主務部局 御中

昭和十九年軍需機密糧第二八七號ニ依ル
糧食品供給集計表 (自 月分 至 月分)

(昭和十九年九月二十六日祕海軍公報)

海軍軍需部

備考 品名ハ何々外何廉ノ如ク記載スルモノトス

供給先應	品名	代	價	記	事



海軍公報 第四八一〇號

昭和十九年九月二十七日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第三一九號
海防艦八十島艦種變更ニ付左ノ通命名ス

昭和十九年九月二十五日

海軍大臣
軍艦八十島(舊海防艦八十島)

官房第一一四五號

魚雷艇九隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名船種、所屬ヲ左ノ通定ム

昭和十九年九月二十五日

海軍大臣

船名	船種	所屬	別定數	記	事
第九十九號雷艇	內(魚雷艇型)	臨時	附屬	舊第四百七號魚雷艇	
第一百號雷艇	同	同	同	舊第四百九號魚雷艇	
第一百一號雷艇	同	同	同	舊第四百二號魚雷艇	
第一百二號雷艇	同	同	同	舊第四百三號魚雷艇	
第一百三號雷艇	同	同	同	舊第四百四號魚雷艇	
第一百四號雷艇	同	同	同	舊第四百五號魚雷艇	

第一百五號雷艇	同	同	同	舊第四百六號魚雷艇	
第一百六號雷艇	同	同	同	舊第四百七號魚雷艇	
第一百七號雷艇	同	同	同	舊第四百八號魚雷艇	

官房經第九一七號、
昭和十八年官房經第四四一號中左ノ通改正ス
昭和十九年九月二十五日
海軍大臣

第二項第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號トシ以下順次一號宛繰上テ
附則
本令ハ昭和十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
(參照) 海軍機密會計法規類集一二五頁

官房第九七五號
大東亞戰爭中海軍武官增俸等取扱特例左ノ通定ム
昭和十九年九月二十六日
海軍大臣

海軍武官增俸等取扱特例
第一條 增俸停年ハ海軍武官增俸規則(以下單ニ規則ト稱ス)
第二條 昭和四年達第五十號第一號ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號
ニ依ル

秘海軍公報 第四八一〇號 昭和十九年九月二十七日

一 各科大尉 二級俸ニハ二年、一級俸ニハ二年
 二 特務士官タル各科大尉 二年
 三 各科中尉 一年
 四 特務士官タル各科中尉 一年
 五 特務士官タル各科少尉 一年
 六 准士官 三級俸ニハ六月、二級俸ニハ二年
 一級俸ニハ二年
 七 上等下士官 三級俸ニハ六月、二級俸ニハ二年
 一級俸ニハ一年六月
 八 一等下士官 六月
 九 二等下士官 六月
 十 兵長 二年

第二條 増俸停年ヲ有シ勤務精勵ナル者ハ規則第六條ノ規定ニ依ル毎級俸ノ人員ノ制限ニ拘ラズ之ヲ増俸スルコトヲ得

第三條 下士官及兵長ノ定期増俸ハ規則第八條本文ノ規定ニ拘ラズ所轄長之ヲ行フ

第四條 特務士官、准士官、下士官及兵長ノ増俸期日ハ規則第九條ノ規定ニ拘ラズ六月一日及十二月一日トス

第五條 所轄長ハ五月一日及十一月一日所屬ノ部下下士官及兵長中増俸停年ヲ有スル者ニ付銓衡ノ上別紙様式第一及第二ニ依リ増俸候補名簿ヲ調製シ所定期日ニ増俸ヲ行フベシ但シ増俸停年ヲ有スルモ現級俸(兵長ニ在リテハ現職)中刑罰ニ處セラレタル者ハ各一回ニ付左ノ各號ノ標準ニ依リ増俸ヲ延期

スルモノトス刑罰ニ處セラレザルモ勤務特ニ不良又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ増俸至當ナラズト認ムル者ハ處罰者ニ準ズ

一 懲役及禁錮 二回

二 罰(罰金、拘留及科) 一回

(但シ公務上ノ過失其ノ他情狀酌量スベキ者又ハ改後ノ情顯著ニシテ増俸スルヲ至當ト認ムル者ハ延期セザルコトヲ得)

第六條 増俸候補名簿ニ登載シタル者其ノ所屬ヲ變更シタルトキハ舊所轄長ハ之ヲ其ノ名簿ヨリ除キ新所轄長ハ増俸候補名簿ニ追加登載スベシ

第七條 増俸有資格者ニシテ轉勤旅行中又ハ行方不明其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ所定ノ増俸期日ニ増俸セシメ得ザリシモノハ之ヲ増俸候補名簿ニ追加登載シ所定期日ニ遡リ増俸スルコトヲ得

第八條 所轄長増俸ヲ行ヒタルトキハ別紙様式第一及第二ニ依ル増俸者名簿ノ寫ニ別紙様式第三ニ依ル増俸候補名簿不登載者調ヲ添ヘ速ニ在籍領守府司令長官ニ報告スベシ

第九條 所轄長ハ其ノ部下下士官及兵長ニシテ増俸資格ヲ有スルモノ傷疾疾病ニ因リ危篤ニ陥リタルトキハ規則第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ際特ニ増俸スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ其ノ旨速ニ在籍領守府司令長官ニ報告スベシ

第十條 應召員ノ増俸停年ニ關シテハ現役及召集中ノモノヲ通算ス

第十一條 規則第十二條、第十二條ノ二及第十三條第二項ノ規

定ニ依ル報告又ハ通知ハ之ヲ要セス

第十二條 本令ニ規定スル以外ノ事項ニ關シテハ各當該規定ニ依ル

第十三條 海軍武官増俸規則、昭和五年達第五十號（海軍兵長ノ増俸ニ關スル件）及本令ハ召集中ノ豫備員ノ増俸ニ付之ヲ準用ス

附則

昭和十六年官房第六一九八號、昭和十八年官房人第二〇〇二號及昭和十九年官房人第三一八號ハ之ヲ廢止ス

（別紙添）

（昭和十六年官房第六一九八號ハ海軍武官増俸規則第六條ノ特例、昭和十八年官房人第二〇〇二號ハ大東亞戰爭中下士官及兵長ノ増俸ニ關スル特例、昭和十九年官房人第三一八號ハ大東亞戰爭中特務士官、准士官、下士官及兵長ノ増俸停年及増俸期日ニ關スル特例ナリ諸例則卷二 二〇二ノ二頁、二〇二ノ三頁、二〇四頁参照）

○通牒

官房軍第一二四八號

昭和十九年九月二十七日

海軍省 副官

關係廳長 殿

福券不購入ノ件通牒

今次發賣サルル福券ハ其ノ發賣ノ趣意ニ鑑ミ官吏ハ之ヲ購入セ

秘海軍公報 第四八一〇號 昭和十九年九月二十七日

ザルコトニ定メラレ候

海人三第二號ノ一〇三

昭和十九年九月二十五日

海軍省軍務局長 殿
海軍省人事局長

關係各廳長 殿

海軍練習聯合航空總隊ニ屬スル下士官、豫備下士官及豫備兵ノ特殊任用進級ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ海軍武官任用令第二十二條ノ三、海軍武官進級令第十六條、海軍豫備員令第二十九條ノ三及海軍豫備員令施行規則第二十一條ノ五ニ依ル獨立部隊ノ規定ハ海軍練習聯合航空總隊ニ適用スル義ト了知相成度
追テ昭和十八年海人機密第一號ノ三五八ハ自然消滅ノ義ト了知相成度
（内令提要卷二、九頁参照）

海人三第二號ノ一〇四

昭和十九年九月二十六日

海軍省人事局長

各領守府參謀長 殿
各所轄長 殿

増俸ニ關スル通牒等自然消滅ニ關スル件通知

官房人第九七五號ニ依リ大東亞戰爭中海軍武官増俸等取扱特例制定ニ伴ヒ昭和十二年海人第一號ノ九七（應召員ノ定期増俸ニ

關スル件) 及昭和十八年入祕第一〇八號(下士官及兵長ニシテ
増俸停年ヲ有スルモ増俸セシムベカラザル者ニ關スル件)ハ自
然消滅ノ義ト了知相成度

(諸例則卷二、二〇四頁及内令提要卷二)



經給第一七九號

昭和十九年九月二十六日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

職域貯蓄ノ實踐ニ關スル件通牒

今般官房人機密第一七四八號ヲ以テ臨時賞與支給方令達セラレ
候處官衙學校勤務者ノ該賞與ニ對スル職域貯蓄ノ實踐ニ付テハ
昭和十七年官房第七一三七號ニ依ル義ト了知相成度

(參照) 昭和十七年官房第七一三七號海軍會計法規類集二卷八〇八
ノ四八ノ三ノ二頁

航本機密第一一八二八號

昭和十九年九月二十二日

海軍航空本部 總務部長

關係各廳長殿

基地兵器及飛行機搭載雜兵器ノ所掌分擔ニ關
スル件申改正ノ件通知

航本機密第一一二九〇號別紙申左記ノ通改正セラレ候

記

一 第三部第一課一般基地兵器ノ項中「航空燈臺」及「氣球標

的」ヲ削除ス

二 第四部第一課無線竝ニ電氣關係兵器ノ項ニ「航空燈臺」ヲ
追加ス

三 第四部第一課無線竝ニ電氣關係兵器ノ項中「充電用直結發
電機、試驗器」ヲ「充電用直結發電機試驗器」ニ改ム

○ 雜 款

○ 事務引繼

在朝鮮京城海軍工廠資金前渡官吏九月三日事務引繼ヲ了ス

新任 海軍主計大尉 尾形典男

舊任 海軍主計中佐 幸村忠一

○ 旅行順路

東京方面 東北本線古間木驛下車(急行ニ乗車ノ場合ハ尻内驛
ニテ乗換ノコト)

青森方面 東北本線古間木驛下車

古間木驛ヨリ當隊迄陸路九・六軒徒歩ニテ約一時間半
午前午後一回宛官用自動車ノ便アリ

(三澤 海軍航空隊)

○ 本口軍極秘海軍公報第一八號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

(官房人第九七五號様式第一)

番 號

昭和 年 月 日

(昭和十九年九月二十七日祕海軍公報)

下士官増俸候補名簿

上等兵曹一級俸ニ増俸スベキ者(現役)

所 轄 長

現 任 官 月 日	現 年 級 俸 月 日	除 算 事 項 及 其 日 數	増 俸 年 俸	現 任 刑 罰 中	特 技 章	氏 名	入 籍 番 號

備考

- 一 本名簿ハ現役、服役延期及應召並ニ各官階及級俸ニ分チ各別紙ニ之ヲ調製ス
- 二 現級俸中ノ刑罰ハ裁判確定又ハ言渡年月日、犯行概要及處分事項ヲ記載ス但シ免除セラレタルモノハ(免)ト附記スルモノトス
- 三 轉勤、死亡及其ノ他増俸セシムベカラザル事由ノ爲削除スベキ者ハ朱線ヲ劃シ其ノ理由ヲ欄外ニ附記スルモノトス

2146

番 號 (官房人第九七五號様式第二)

昭和 年 月 日

兵 増 俵 候 補 名 簿

水兵長特別俵ニ増俵スベキ者(現役)

所 轄 長

(昭和十九年九月二十七日海軍公報)

兵長進級日	除算ノ日數	増俵年俵	現職中ノ罰	特技章	氏 名	入番 籍號

備考

調製要領ハ下士官増俵候補名簿ニ準ズ

(官房人第九七五號様式第三)

(昭和十九年九月二十七日秘海軍公報)

年 月 日 調

應 名

下士官(兵) 増俸候補名簿不登載者調(現役)

事	山	現官(職) 任命年月日	現級 給與年月日	特技章	官(職)	現級俸	氏名	入籍番號
勤務ノ成績不良 (一九六三威信失墜禁足十日)		八一二一一	元一六一	高砲	上曹	三	何某	横志水 一三五五
一九、一、二五行方不明 トナリ候補名簿ヨリ削除		八一二一一	元一六一	普信	上曹	三	何某	横志水 一八五五
一九、六、五ヨリ行方不明		元一五一	元一六一	丙操	一飛曹	二	何某	横志飛 五五五
父看護 十五日		八一五一	元一六一	普内火	上機曹	二	何某	横志機 五七五
二種入院(胸膜炎)四月七日		元一五一	元一六一	普經	二主曹	二	何某	横志主 二五七

備考

- 一 本調書ハ現役、服役延期及應召並ニ下士官及兵ニ分チ各別紙ニ之ヲ調製ス
- 二 本調書ニハ増俸候補名簿調製期日ニ於テ増俸停年ニ達スベキ經過日數アルモ除算事項ノ爲増俸資格ヲ有セザル者増俸停年ヲ有スルモ第五條但書ニ依リ増俸ヲ延期セラルベキ者及増俸候補名簿ニ登載シタルモ増俸セシムベカラザル事由ヲ生ジ該名簿ヨリ除キタル者ヲ記載スルモノトス